活動報告(質問一覧)

**決算特別委員会**とは。

予算の使い方を審議する委員会である、1人10分～20分を割り当てられ質問します。

質問時間は止まらずに時間が来ると途中でも質問終了となります。

令和元年　決算特別委員会１日目【歳入】

↓↓↓質疑応答↓↓↓

【松澤質問】

平成２９年度は６２億１８１万３０００円、平成３０年度は５１億８７９８万８０００円と減少し、連動する実質収支比率、平成２９年度は6.5％、平成３０年度は5.0％と下がっているが理由の説明を。

【品川財政課長答弁】

財調の特別交付金の関係で金額が少しさがっているというような状況になる。

これに連動し実質収支比率も下がると言うものであるが、実質収支比率は計算式の中身で分母になるところが決算状況一覧表の標準財政規模になり、歳入が増えた事により金額が増えている。

こうした関係で実質収支率が５％と言う形になっており、通常３％～５％が適正な値という事で言われている為、そういう意味では本年度決算の方が実質収支比率としては、適切な値となる。

【松澤質問】

特別区たばこ税は32億余と大変多くの税収となっている。

この数字は減少しているものなのか最近の傾向を教えて欲しい。

それと、喫煙環境整備補助金480万余と収入が割り当てられているが、これはどのように使ったものなのか。

【伊東財務課長答弁】

特別区たばこ税の歳入だが、平成29年度決算から見ると1200万余ほど減収となり、売り渡し本数については毎年1,000本単位で減少が続いている状況となる。

全体的に見ても、昨今の健康志向や喫煙環境の影響により税収も右肩下がりと言う状況である。

【立木経理課長答弁】

補助金は庁舎に喫煙所を２か所設置しており、そちらの工事費に充てられ、東京都の補助金10分の10の補助となっている。

【松澤質問】

受動喫煙防止が進み、喫煙所がなくなる中、モラルの問題だが路上喫煙が増えた傾向にある。

そこで、街にある喫煙所はどのような財源が充てられているものなのか。

【伊東税務課長答弁】

たばこ税も一般税源と言う事で、喫煙所も一般の財源より充てている所である。

補助金、助成金等がない為である。

【松澤質問】

32億余の特別区たばこ税の税収を受動喫煙対策にもっと多く使い、分煙の進む品川区として街づくりを進めて欲しいが区の見解は。

【黛生活安全担当課長答弁】

委員よりご指摘のあったコンテナ型、パーテンション型の設備は、分煙化を進める上で大変重要であると認識している。しかし、設備を導入するにあたり敷地の広さや、交通安全上の問題もあり、知恵を絞りながら可能な限り分煙化施設を導入し、快適に過ごせる街づくりを進めて参る。

【松澤質問】

安全上難しいとは認識しておりますが、副流煙を防ぐ目的でコンテナ型の喫煙所配備を要望して次の質問に移ります。

甚大な被害を出した台風15号、自宅近くにある文庫の森も倒木があり、外に倒れなかったがもし仮に電線が切れ大規模な停電に見舞われてしまった際、品川区の対応は。

【多並道路課長答弁】

特に千葉県を中心とした電柱の倒壊などによる停電があった。

品川区においても倒木が起こり電線を引っかけた場合は起こりえると思う。それについては東京電力と協議しながらあらゆる対策を今後検討しなくてはいけないと考える。

【松澤質問】

停電しない為にも無電柱化を進めていく事を要望し質問を終わります。